

第30回警察庁政策評価研究会要旨

1 日時

平成27年6月16日（火）午前9時57分から午前11時06分までの間

2 場所

警察庁庁議室

3 出席者

○ 委員

前田 雅英 日本大学大学院法務研究科教授（座長）
江尻 良 東海旅客鉄道株式会社執行役員広報部長
櫻井 敬子 学習院大学法学部法学科教授
田辺 国昭 東京大学大学院法学政治学研究科教授

○ 警察庁

栗生 俊一 官房長
島根 悟 政策評価審議官兼官房審議官（生活安全局担当）
村田 隆 官房審議官（国際・サイバーセキュリティ担当）
露木 康浩 官房審議官（刑事局・犯罪収益対策担当）
濱 勝俊 官房審議官（交通局担当）
前川 和則 技術審議官
山本 仁 給与厚生課長
筋 伊知朗 警備企画課長
佐野 裕子 総務課警察行政運営企画室長
名和 振平 警察大学校警察政策研究センター所長（オブザーバー）
田代 裕昭 科学警察研究所総務部長（オブザーバー）

4 議題

平成26年度実績評価書（案）について

5 報告事項

- (1) 平成26年度政策評価実施結果報告書（案）について
- (2) 道路交通法の一部改正に係る規制の事前評価について

6 議事要旨

(1) 議題について、総務課警察行政運営企画室長による説明の後、質疑応答が行われた。平成26年度実績評価書（案）に関する研究会委員の意見等の概要は以下のとおり。

- 基本目標 1・業績目標 1「総合的な犯罪抑止対策の推進」
 - ・ 安全の度合いの客観的なレベルを示しているといえる犯罪の認知件数について、10年程の間コンスタントに減少しているが、これは、主観的な安心にまでつながってきているのか。
- 基本目標 1・業績目標 3「良好な経済的活動等の確保及び環境破壊等の防止」
 - ・ 産業廃棄物事犯の検挙事件数が減少しているが、オリンピックの開催に向けてこれから首都圏で大規模な工事が始まっていくと思うので、関係機関との情報交換を密にし、産業廃棄物事犯の取締りに努めていただきたい。
- 基本目標 2・業績目標 3「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺の捜査活動及び予防活動の強化」
 - ・ 消費者事案については、20代の若者が被害に遭うことも多いが、特殊詐欺の被害者は高齢者が多いのか。被害総額が増えている中、被害の防止が一番重要だと思うが、高齢者という被害者の特性上、被害防止の広報啓発活動において一般犯罪の被害者と異なる工夫が必要だと思う。
- 基本目標 3・業績目標 1「暴力団等犯罪組織の存立基盤の弱体化」
 - ・ 平成26年の犯罪収益等の没収・追徴額が過去5年間と比較してずいぶん少ないが、犯罪組織が儲けていないから没収・追徴額が少ないのか、それとも、対策が十分でないから没収・追徴額が少ないのか。
- 基本目標 4・業績目標 1「歩行者・自転車利用者の安全確保」
 - ・ 自転車専用道路の整備について、自動車運転者からすると、自転車が歩道と車道の自転車専用レーンを非常にスピードを出して走ることで、交通事故のリスクが高くなっているという実感がある。本来、専用レーンはリスクを考慮しつつ設定されるべき。また、専用レーンが途中で切れているなど、工事もぶつ切りで行われている。
- 基本目標 6・業績目標 1「犯罪被害者等に対する経済的支援・精神的支援等総合的な支援の充実」
 - ・ カウンセリングはかなり有効なものだと認識しているが、警察部内カウンセラーと部外カウンセラーは、運用上、どのような分担なのか。また、部内カウンセラーはどのような専門性を有するのか。

○ 基本目標 7・業績目標 1 「情報セキュリティの確保とネットワーク利用犯罪等サイバー犯罪の抑止」

- ・ 例えば、取引の相手方の情報セキュリティが脆弱で、そこから重要な情報が漏れてしまうということも考えられるため、一般個人や中小企業であっても、サイバー攻撃を受けるリスクがあり、犯罪の温床となることもあり得る。そこで、個人や事業者が前広に相談できるよう、サイバー犯罪に関する相談窓口を広くPRしていただきたい。
- ・ コンピュータ・ウイルスによるハッキングや情報窃取等は重要インフラ事業者にかかわらず個人でも起こり得ることで、大変身近な問題。実害が出ていないものもあるだろうし、評価書上の数字では捉えられていないものがあるのではないか。
- ・ 警察は、日本年金機構の個人情報流出についてどの時点でどこから認知したのか。犯人の検挙や情報流出による損害の確認は警察力がなければできないこと。NISCが入手した情報について、NISCから警察庁に直接渡して合理的に共有しようという議論はないのか。

(2) 報告事項について、総務課警察行政運営企画室長から説明があった。研究会委員からの質問・意見はなかった。

以 上